



優秀賞 (総合部門)

タイトル

道灌山の家

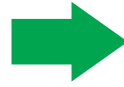
タイプ

持家一戸建

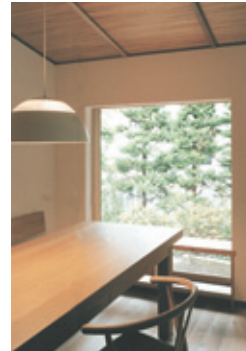
講評

今後増えるであろう<二世帯の同居>のための増改築。内部と外部の繋ぎ方が巧みなプランニングであり、都心でありながら庭付き一戸建ての持つメリットが最大限に生かされている。素材の使い方やインテリアも美しい。

リフォーム前後の写真



①庭へのアプローチ。軽やかな庭と古い灯籠が調和。ランドカバーはディコンドラ。



②1階ダイニングから外を眺める。床は厚さ36mmのベイスギ。テーブルはナラ。



③西側の玄関。内部は格子の光が美しく入る。



④中2階レベルの玄関から見る。階段を上った2階が子世帯の住居。下階が親世帯。



⑤浴室からテラスを見る。ここでは物干し台にもなる。



⑥外観。全体の外観は、思い出ある家を残したいという要望を考慮しあえてあまり変えずに設計。



⑦庭からテラスを通してリビングを見る。床は厚さ15mmのライムストーン貼り。ライムストーンと敷石の関係も室内と外部の一体感を高めている。リビング、テラスはそれぞれ建具で仕切ることができる。



⑧ダイニングからリビング、テラス方向を見る。天井はヨシベニヤ張り。



⑨リビングからダイニングを見る。左手がキッチン。オーディオや仏壇を納めた棚はチーク。



⑩2階リビング、ダイニング方向を見る。既存の柱を残しつつ、開放的になるように構造設計している。

リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

35年前、今は亡きご主人が建てた家に長男夫婦と同居することになったことを機に、二世帯住居へ改修ということになりました。上下階共に主に東～南へと外部に開いたプランとし、樹木に囲まれた庭と親密に繋がる一階、前面テラスにより近隣下方の家並みを遮って上野の森や街を遠望できるオープンな二階、と内外の広がりには変化を与え、水廻りなど生活の基本動線は、既存住宅の配置を踏襲して工費削減と共に住まい手が違和感なく新しい住宅に馴染めるように配慮しました。主な仕上げ材には可能な限り米杉材を使用。耐腐朽性、コストパフォーマンス

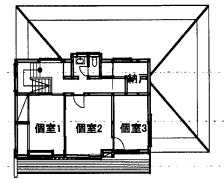
に優れた上内外の床材から建具材まで使用出来る材であり、内外区分を曖昧に作る今回のコンセプトに適していると考えました。外壁は外側に空気層を150ミリ程度設け、外部からの熱環境の影響を少なくし、丘陵地に位置することから、充分な通風が望めるため開口部に効果的に配置、デザインすることによりエネルギーセービングを実現しています。外構はブロック塀を取り去り、庭園を近隣の方々から見えるようにして周辺環境に寄与するものとしながら、同時に防犯性を向上させました。

特に配慮した住宅性能 玄関から応接コーナーの融通性のある空間。リビングルームと庭園との緩やかな繋がり。2階息子世帯の玄関。格子を細かく入れることで通風とプライバシーを獲得している。

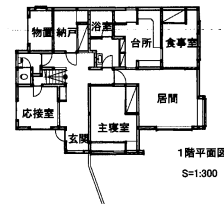
データ

所在地	東京都文京区	構造/築後年数	在来木造/35年
該当工事面積	195.34 m ² /総工事床面積 195.34 m ²	該当部分工事費	4,500 万円/総工事費 4,500 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満: 3人/65歳以上: 1人/15歳未満: 1人/ベッド:		
設計者	手嶋保建築事務所	担当者	手嶋 保
施工者	松栄企画(株)	担当者	秋吉 真

リフォーム前

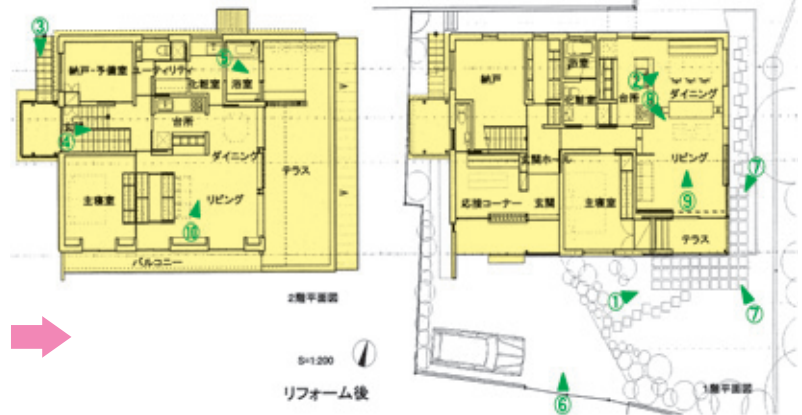


リフォーム前



リフォーム後

リフォーム後



リフォーム後